

# 寺報 龍正寺

日なた 146号

和妙  
日未  
廷



<令和 2年 7月>

宝龍会  
持護會

## 住職一言

御盆の日です、御先祖様の供養をいたす時です。  
佛様は、妙法蓮華經如來神力品第二十一に説けてい  
ます。

「若しは園の中に於ても、若しは林の中に於ても、若  
しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白  
衣の舍にても、若しは殿屋に在りても、若しは山  
谷曠野にても、是の中に皆心に塔を起て供養  
すべし」

(解釈)

園の中と云って、田、畠など 林の中でも、樹の下  
でも、僧房と云って、僧のいるところでも、白衣の家と  
って在家でも、殿屋であっても、山や谷や広い野原で  
あっても、そこにこの教を信じて実行するもの、塔をた  
てて供養すべしと書かれてあります。

私たちの心があれば、法華經(御題目)を唱える所  
には佛様が、ご来臨下さいます、  
一定の場所でなくとも、どんな所であっても、御先祖

様の供養をいたす事が出来るのです。

佛様に願うことがありましても、報恩感謝を忘れる事なく、感謝の気持をもって御先祖様の供養にあはげ“みいただ”きたいと存ります。

合 淳

南無妙法蓮華經

さくらは  
おもしろき物  
木の中より  
さきいづ

日蓮聖人御遺文「重須殿女房御返事」

聖語解説 = いの花を咲かせよう =

花と言えば桜。日本人に最も親しまれ、愛される花と言っても過言ではないでしょう。  
ところが冬、寒風に晒され葉を落とし、ぽつんと立つ  
桜の木の姿を見ると、春にあのほんのりと柔らかい花  
が咲くとは想像し難いものがあります。まさに春  
という季節の縁を得て、木の中に宿っていた芽が  
咲き出すのです。

それと同様に、いつもとして私たちの心の中にも  
桜の花のような優しい仏の芽が宿っています。  
だからこそ仏さまの教えに触れていの花を咲かせ  
ようではありませんか。

ここまで文章は日蓮宗カレンダー4月に記載されているものです。

この聖語解釈と重須殿女房御返事の文章を見て父の事がよぎりました。

父は子供の頃、弟2人をしています。

中学卒業後は鉄工所勤めをして、まじめにコツコツと働いていました。表現が下手な父ですが、子供に愛情一杯かけて育ってくれました。

私は、この数年父を思うと涙がでてしまいます。

ある本を見て『人は実壁ではない』という事を意識するようになってからは、父の苦しい思い、大変だった生き様を思うと涙が出るのです。

この2~3ヶ月世の中激的に変化していますが、自身の気持ちにも変化があり、そんな中、テレビを見ていたこのセリフがついに突き刺さりました。

「泣いても一生、笑うても一生  
ならば今生 泣くまいぞ」

このセリフは父の心の有様に思えて涙が止まりませんでした。

私は父が泣いた所、弱音を吐く所も見た事も聞いたこともありません。

矢のじとくに、じに束りさるのでした。  
私が今出来る事... それは...  
父が死ぬ時に少しでも笑って行く事ができる事では  
ないかと...

仏様の教えに触れ、じの花を咲かせていく事が  
できるよう、父との関わりを大事に考えて行きたいと  
思っています。

## 〈新型コロナウイルスと会社の廃業〉

今月に「寺報」号に久しぶりの投稿をさせて戴きました。  
佐々木さんはじめ、役員の方々の記事を拝読していると…  
私のどの記事を載せて頂いた方がいいのか?と思つておりました。  
この度に私事ではありますが、2000年に創業した会社を  
20年を以て廃業するに至るお話を書かせて戴きました。

昨年の春頃に遡るのですが…  
知人の会社の重役の方から会社の合併と業務の統合の話を持ち掛けられました。  
ちやうどその頃、私自身も経営者としての進退を考えていた頃で、  
長年の金銭の面や、顧客の確保、従業員への心労も  
精神的に疲れ切ったのも事実であります。  
その申し入れを快諾する運びとなりました。  
それに伴い、やるべき事柄が山積みでもありました…  
合併に伴い従業員への待遇や保障、お客様への挨拶回り、  
銀行貸付金の清算、リース支払いの清算やらと  
あっという間に季節は春から晩秋の11月末に変って行き、  
内容も終りが近づいていた時に…  
私と税理士との打ち合いで「解散月を来年の8月にします」と  
話し合ひをしていた時に  
私の身体の内から男性の声が聞こえてきました  
「やらなくていい」とハサカルト口調で。  
その言葉が何を意味するのかが理解できずにいましたが、  
経営自体に困難な状況では私は 8月解散ではなく  
3月末の解散に変更しました。

そして年が明け今年を迎える。庶業承継とも最終には不運  
このコロナウイルスが時は疎か。世界に広がり、経済は壊滅、  
何々、多くの死者が出てしまったことになります。  
誰もが予想を以て混乱の中で、コロナウイルス来襲の寸前で  
会社に負債もダメージも負う事もなく有終を迎えるに至り、  
私は、とあの時の声を想起します。  
「やらないでいい」には、この事だったのかと思ひ馳せます。

その経緯を佐口人に話してもらいました。

「新型コロナウイルスで多くの人達が崖から落として行く中で、  
お題目にお手で助けて頂けたのです」と教示して戴きました。

美と言えば… 3年前にも同じ事があったのです。  
30年喫煙したタバコを止める時も、中々禁煙できなつていると  
同じ時に身体の中から男性の声で「せっかくお教えたのに！」と  
少し叱責気味の言葉です。  
その後に病院に行くとレントゲンで肺に気胸が見つかりました。  
こんな話を他言すると周りから変人だ扱われる気がしてしまいます。

少しご話が脱線します…

この声は偶然でなく、单なる妄想でもなく  
私に深く縁を戴いている仏様の声に違ひないと思つります。  
そこで設立時より年内に渡り、会社の繁栄を祈願して頂けた  
佐口人と守護して戴いて法華經守護神称し感謝致ります。  
まだ手に私自身ゆっくり歩幅で歩いています。  
この法華經を信仰し感謝のお題目を唱えに行って  
見つけます。

# — 共に挑戦!! —

緊急事態宣言が解除され、少しずつ外出も多くのようになりました。学校や習い事も、新しい生活様式を守りながら慎重に始まっています。

自粛中、そろばんを習っている息子は携帯のオンラインシステムを利用して時間を短縮して参加していました。6級合格を目指しており、いつも送り迎えだけしていた私は、授業の様子を隣の部屋で聞きながら、自分も少しひけ携わる事に有難さを感じていました。先生から試験のプリントを受け取り、自宅で時間計測して6級に挑戦しましたが、2枚のプリントでは不合格。息子もとても残念がっていました。

自粛が解かれると、通塾が可能になりました。日数は少ないのでですが、その度に先生は試験に挑戦させてくれたようで、送った際は「落ち着いてやれば大丈夫だからね！」と励まし、迎えの際は、どんな顔をして帰ってくるか、ドキドキしていました。

でも、なかなか合格点には届かず、泣いている息子を慰めるこしか出来ませんでした。少しでも早く合格できる様に、自粛中のオンライン授業を思い出し、自宅で息子と一緒に練習する事にしました。特に苦手な所を中心に、息子の指を見ていると、どうか所で間違えているか、とてもよく分かりました。1つ1つクリアにしていき、息子の頑張りのお陰で、見事合格することやできました。帰りは飛び跳ねるような足取りで車に戻ってきた息子。「嬉し涙が出てるー!!」と目をこすっている姿に、私も手を叩いて喜びました。

「行きたくない…。辞めたい…。」と言った時期もありました。こんな経験をたくさん積んで、あきらめずに努力し、挑戦する力を身につけてほしいと願っています。

## 〈7月 行事予定〉

七月 12日 (日) 13:00~ 宗祖日蓮大聖人報恩会  
盂蘭盆施餓鬼大法要

18日 (土) 10:00~ { 鬼子母尊神  
七面大明神 ) 祈祷会  
大古久尊天祈願会

## 〈7月 住職の予定〉

寺院にて法務

## 〈7月の予定〉

7月 1日 (水) 各々の時間で 清掃、準備

↓

↓

↓

7月 7日 (金)

11日 (土) 10:00~

飾り付け

12日 (日) 法要後

片付け、準備

13日 (月) 各々の時間で

清掃、準備

↓

↓

↓

7月 17日 (金)